



国語科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【育成を目指す資質能力の確認】 事前に、本時の学習を通して生徒が「何ができるようになるか」を確認しているか。
- 【学習内容の意識化】 本時の学習内容が、単元の終末にどうつながるのか意識できるようにしているか。
- 【板書の工夫】 思考の流れを見える化し、学習前と学習後の考えの変容について振り返り、身に付けた資質・能力を実感できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【時間の設定】 生徒が、自分の意見や考えを客観的に捉えられるように、他者の意見や考えと比較できる時間を確保しているか。
- 【考えの共有】 生徒のよい考えを把握しておき、学級全体で共有できるようにしているか。
- 【資料の活用】 考えの根拠となる資料を用意し、活用できるようにしているか。(叙述、図表等)

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【言語への自覚化】 生徒の発言や記述に対して、「なぜ?」「どうして?」と切り返す等、思考の言語化を促し、「言葉への自覚」を高めるようにしているか。
- 【言葉の捉え直し】 文や言葉を辞書的な意味で捉えた上で、もう一度叙述に戻って捉え直したり、文脈や場面に照らし合わせながら問い直したりしているか。
- 【社会生活への関連付け】 一単位時間、単元を通して学習したことが、他教科や社会生活に生きるように意図的、具体的に、関連付けを図っているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



社会科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【資料提示の工夫】 具体的な事実を基に疑問をもたせ、問いや課題につながるような資料を提示しているか。
- 【課題把握の工夫】 既習事項や生活経験を基に予想させ、問い返したり関連付けたりすることで、単元を貫く学習問題（課題）を把握できるようにしているか。
- 【まとめの工夫】 毎時間のまとめは、単元を貫く学習問題（課題）の解決に結びつけるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【話合いの設定】 調べたことを整理したり、関連付けたりする話合いの場面を設定しているか。
- 【視点の明確化】 生徒同士の予想のずれを明確にしたり、話し合うべき「問い」を確認したりしているか。
- 【思考の明確化】 生徒の発言内容の根拠や立場を明確にしたり、差異やつながりを的確に聞き分け思考を焦点化させたりする問い返しを行っているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【「見方・考え方」を働かせるための支援】 「空間」「時間」「相互関係」等の視点に着目したり、比較や関連付けたりできるような資料の加工や提示の仕方を工夫しているか。
- 【目標達成の工夫】 単元の目標を達成するために、本時と単元の指導計画の関係を意識して指導しているか。
- 【知識の獲得】 生徒が調べて得た具体的な事実を結び付けて「概念等に関わる知識」（特色や意味を説明できる知識）を獲得できるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



数学科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【課題設定の工夫】 課題は教師が提示するのではなく、既習などから生徒とのやり取りを通して設定しているか。課題解決の必要感をもたせているか。
- 【見通しの共有】 方法の見通しや答えの見通しを、必要に応じてもたせているか。また、見通しを共有し全員が課題に取り組むことができるようにしているか。
- 【振り返りの実施】 ノートや自己評価カード等に、本日の学習過程の中で気付いたこと・分かったこと、今後学習してみたいこと、思考の変化などを書くように助言しているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【個人での解決】 日常生活の場面を想起させたり、具体例や具体物等を用いて試行錯誤させたりすることで、全員が自分なりの考えをもつことができるようにしているか。
- 【言語活動の充実】 図(絵)、式、表、グラフ、言葉に関連付けながら、表現ができるようにしているか。
- 【発表方法の工夫】 他者の考えを発表させたり、発表内容への付け足しや質問をする場面を設定したりすることで、他者の考えを理解し、思考を深めることができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【板書の工夫】 視点(共通点や相違点など)を与え、授業で働かせる「見方・考え方」のキーワードを板書し、意識させているか。
- 【生徒の発言の活用】 生徒の発言をつなげたり、生徒の発言に問い返したりすることで思考を広げているか。
- 【統合的・発展的な思考】 関連付けて考える、適用範囲を広げる、条件を変えるなど統合的・発展的に考えることができるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



理科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【課題設定の工夫】 見通しをもって観察や実験ができるような学習課題を生徒とのやりとりを通して設定しているか。
- 【目的意識の醸成】 個々に予想を立てさせ、目的意識をもって観察や実験をさせているか。
- 【適切な時間確保】 まとめと振り返りの時間をとり、自分の言葉で書かせているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【授業場面の組立】 生徒が考える場面と教師が教える場面を意図して授業を組み立てているか。
- 【場や時間の確保】 仮説を立てる、実験から得られたデータを整理する、考察するなどの場面では、個で思考する場面や時間を十分確保しているか。
- 【話し合いの焦点化】 話し合いの目的・視点を示しているか。(共通点、差異点、結果・根拠、妥当性、気づき、新たな疑問等)

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【「見方・考え方」を働かせるための支援】 単元や本時で働かせる理科の見方・考え方をあらかじめ確認しているか。
- 【日常との関連】 学習したことを日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにしているか。
- 【場面設定の工夫】 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成できるように授業を設計しているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



音楽科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【共通事項の確認】 事前に、その題材において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確に設定し、授業展開を考えているか。
- 【変容の価値付け】 生徒の表現の変容を捉えて、そのよさや表現の工夫を伝えたりしながら価値付け、全体で共有しているか。
- 【学習の自覚化】 ワークシート等を活用しながら、学んだことの意味や価値を自覚できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【活動の設定】 音や音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させる活動を設定しているか。
- 【目的の理解】 何のために対話するのか、その目的を生徒、教師が理解しているか。
- 【思考の深化】 他者の感じたことや思考したことを、必要に応じて音で確認したり、実際に表現しながら試行錯誤したりする活動が設定されているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【見方・考え方の明確化】 本時で働かせるべき「見方・考え方」を教師自身が整理し、明確にしているか。
- 【生徒との対話】 授業の中での生徒の発言を取り上げ共有したり、問い返しや切り返しをしたりしているか。
- 【活動内容の工夫】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質を理解する活動が設定されているか。(自己点検⑤)

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



美術科の「授業振り返りシート」(中学校)

北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【題材名設定の工夫】 学習内容やねらいが題材名からも分かるような工夫をし、身に付ける資質・能力を意識して題材を設定しているか。
- 【課題解決を図るための支援】 制作目標や手順を示し、生徒が見通しをもって制作するための板書の工夫をしているか。
- 【振り返りを次時へつなげるための支援】 本時のねらいや「形・色・イメージ」などの〔共通事項〕に沿った発問をし、学んだ内容を実感し、次時への学習イメージを持てるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【生徒との対話】 机間指導で、生徒一人一人の表現意図に応じて、傾聴し、共感し、心理的安全性を意識した、適切な言葉かけや指導・支援を行っているか。
- 【鑑賞の視点を明確化】 鑑賞の活動では、共通事項を基にした視点を与え、生徒が作品と向き合う上でのヒントとなるような具体的でわかりやすい問いかけを意識しているか。
- 【考えを広げ深めるための支援】 生徒同士が互いの作品について伝え合える場の設定や場面を工夫し、表現と鑑賞を相互に関連させる活動を意識しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【見方・考え方を働かせる支援】 活動の中で「造形的な見方・考え方」を具体的にイメージし、生徒自身の自分なりの価値を見出せるような「問い」の工夫をしているか。
- 【学びを実感させる場の設定】 作品や工夫した表現を生徒相互に鑑賞する時間を設定し、自身の学びや変容を自覚できる場面を設けているか。
- 【深く思考するための支援の工夫】 知識や技能の一方的な指導ではなく、一人一人の感性を大切に授業展開を考え、個の発想が認められる場の設定をしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



保健体育科の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見直し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【思いに沿った課題設定】 学習前の興味や関心を出発点としながら、生徒の思いに沿った必要感、目的意識が明確な学習課題を設定しているか。
- 【主運動へのつながり】 感覚づくりの運動は、主運動につながる基礎的・基本的な運動を厳選して行わせ、主運動とのつながりを理解させているか。必要感や目的意識を持たせながら、主運動に必要な動きや感覚を保証しているか。
- 【次時への意欲喚起】 本時のねらいに沿って学習活動を全体で振り返り、評価し、まとめをする時間を確保できているか。その中で、自己の次の課題に気付かせ、次時への意欲喚起を図っているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【発問の工夫】 本時の学習課題や個々の課題に迫る思考を促す発問、考える必要性や価値のある発問をしているか。
- 【個と集団のバランス】 課題を意識して一人でじっくり取り組む時間と、友達と関わりながら取り組む時間をバランスよく設定し、自分なりの意見や考えを持ち、友達との対話に必要な感が持てるように指導しているか。
- 【表現手段の支援】 気付いたことや考えたことを、言葉や動作、絵図、ICT 機器を活用して友達に伝える具体例を示し、指導しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【育みたい資質・能力の意識】 指導や支援、評価が技能だけに偏ることなく、常に単元の中での本時の位置付けや、本時に特に育みたい資質・能力を意識して指導・支援しているか。
- 【既習事項の活用】 「どうすればもっと勝てるのか、できるようになるのか」等を常に考えさせ、既習の課題解決の方法を活かして主体的に学習できるように指導・支援しているか。
- 【多様な関わり方との関連付け】 「すること」だけでなく、「みること」「支えること」「知ること」など、生徒の適性に応じて、運動との多様な関わり方と関連付けて指導・支援しているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6 則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



技術分野の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」のために

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するため。そのためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見直し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【生活との関連】 生活と技術との関わりを一層強く認識したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを気付かせたりする学習活動を取り入れているか。
- 【社会との関連】 題材を通して、生活や社会の中から技術に関わる課題の発見や解決に取り組みるようにしているか。
- 【過程を踏まえた支援】 「課題の設定」「技術に関する科学的な理解に基づいた設計等」「課題解決に向けた製作等」「成果の評価」の各段階間を往来させることを踏まえた支援を行っているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【他者との交流】 課題を設定する場面で、自分の考えが十分まとまっていない場合には、友達の考えを参考にしたり、助言を求めたりすることができるようにしているか。
- 【考えの交流】 各自が立てた計画を検討し合う場面で、生徒の思いや願いを友達に伝えることにより、適切なアドバイスを得ることができるようにしているか。
- 【思考の可視化】 グループや学級による話し合い活動を通し、考えを整理し、それらを集約・分類するなど、互いの考えを可視化し、よい部分を認め合い、比較・評価・改善できるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【社会との関連】 技術が生活や社会における問題を解決するために、長所・短所の折り合いをつけて技術の見方・考え方に気付かせ、技術を最適化できるようにしているか。
- 【思考の支援】 技術によって問題を解決する力や自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策が構想できるようにしているか。
- 【振り返り】 振り返りの時間を確保し、本時の学習内容の理解や解決活動（製作・制作・育成）の確認ができているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



家庭科・家庭分野の「授業振り返りシート」(小・中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見直し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【課題設定の工夫】 児童生徒が、家族・家庭や地域における生活を見つめることを通して、日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定できるようにしているか。
- 【目的の明確化】 「何のために(目的)学ぶのか」を明確にし、児童生徒が学ぶ意義を自覚することによって、主体的に学習に取り組むことができるようになってきているか。
- 【学習意欲の涵養】 試行錯誤しながら、知識及び技能の習得に粘り強く取り組むための適切な支援や工夫をしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【効果的な場面の設定】 ねらいにせまるために、活動の目的や意図を明示するなど、活動の効果を考慮して対話する場面を設定しているか。
- 【思考の可視化】 グループや互いの考えをホワイトボードや1人1台端末の活用により可視化して整理し、それらを集約・分類するなどして、比較できるようにしているか。
- 【考えの交流】 よいところやアドバイスなどを交換し合い、改善策につなげるような話し合い活動ができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【日常との関連】 児童生徒が、「見方・考え方」の視点から、日常生活の中から問題を見だし、課題を設定する力を身に付けることができるようにしているか。
- 【発問の工夫】 「なぜ、そのようにするのか」など、「見方・考え方」を引き出すような発問を意図的に行うことで、児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考できるようにしているか。
- 【教室環境や資料提供の工夫】 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考を深めることができるよう、教室環境や教材・教具の工夫を図っているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県小・中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県小・中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県小・中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していかうとすること

- 【学習課題の設定】 事前に、本単元や本時の目標を達成した生徒の姿を具体的にイメージし、内容や時間のまとまりを見通した授業計画を作成しているか。
- 【見通しの提示】 単元の目標（単元を通してできるようになること）を単元の最初に、生徒と共有しているか。
- 【振り返りの実施】 自分の考えや英語表現の理解の深まりを実感できるよう、本時や単元の終わりに自らの学習やコミュニケーションを振り返り、次の学習につなげているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【活動場面の工夫】 言語活動を行う目的・場面・状況や、相手を意識させ、必然性のある活動を行っているか。
- 【温かい学級づくり】 相手の考えに対して反応したり、感想を言ったりできるような他者の意見を尊重し合える雰囲気醸成し、自分の考えや気持ちを自由に表現できるようにしているか。
- 【考えを持つための支援】 生徒の発言や様子を丁寧に見取り、問いかけたり共感したり、具体物、写真、資料等を活用して考えや気持ちのイメージを膨らませたりする支援をしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【学習過程の工夫】 目的・場面・状況等に応じて思考力・判断力・表現力を発揮する中で、既習の知識や技能をつなぎ合わせコミュニケーションを図っていく課題を設定しているか。
- 【理解・表現の質を高める工夫】 目的・場面・状況等を設定して言語活動に取り組みせ、その後必要な指導や練習を行い、再度言語活動に取り組みさせているか。
- 【「見方・考え方」を働かせる支援】 目的・場面・状況に応じて、伝えたい「内容」や伝えるための「表現」を振り返らせ、情報を整理し、考えを再構築させているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているわけではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。



「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」のために

目標に示された学習活動によって児童生徒が道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を養うための指導（道徳科の特質を生かした授業改善）を行うことが重要である。（＝「考え、議論する道徳」）

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【適切な課題設定】 主題に対して児童生徒が興味・関心を高め、ねらいとする道徳的価値に関わる問題意識や学習課題をもたせているか。
※学習課題は、必ずしも明文化する必要はない。
- 【多様性の理解】 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さもあることや道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではなく、多様であることを理解させているか。
- 【思考を深める場の設定】 教材を通して考えたことをもとに、これまでの自分の経験やその時の感じ方・考え方と照らし合わせながら考え、自己理解を深め、自己の（人間としての）生き方についての考え（よりよく生きていくことへの思いや願い）を深められるようにしているか。 ※今後の生き方についての決意表明を求めるものではない。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【教具の工夫】 考えを視覚化するツール（心情円盤、ワークシート）を使って多様な意見を引き出しているか。
- 【思考を深める工夫】 教材や体験などをもとに考えたことや感じたことを共有させたり、異なる視点から多面的・多角的に（様々な見方や考え方で）考え、議論させたりしているか。
- 【発問・発言場の工夫】 本音を引き出す効果的な発問の工夫や意図的指名、少人数による話し合いの場の工夫をしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【効果を踏まえた方法の選択】 発達の段階や発達の特性、指導内容等に応じて、効果的な指導方法を選択して工夫しているか。（教材提示、発問、話し合い、書く活動、動作化や役割演技等の表現方法、板書、説話等）
- 【活動の工夫】 様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えられるような学習活動を設定しているか。

※「主体的な学び」や「対話的な学び」は簡単に切り離し考えられるものではなく、お互いに関わり合いながら展開され、「深い学び」になり、教師の明確な指導の下に、児童生徒は自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくことにつながります。



総合的な学習の時間の「授業振り返りシート」(中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【学習への意欲付け】 事前に学習の見通しをもつことや相手意識・目的意識を念頭に、課題を設定し課題意識をもっているか。
- 【対象に迫る支援】 対象に直接触れる体験活動を通して、生徒自ら課題に気付くことができるようにしているか。
- 【変容の自覚】 振り返りの時間を確保し、学習したことの意義や自己の考えの変容を自覚できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【教材の工夫】 考えるための技法として思考ツールなどを活用し、課題解決に向けて考えを広げたり、整理したりできるようにしているか。
- 【活動の双方向化】 他者との協働的な活動を取り入れたり、対象となる人々と相互に関わったりして、双方向性のある活動になっているか。
- 【情報の収集】 より多く、確かな情報を収集するために、他者への説明や対話、新たな考えを創造する活動を取り入れているか。また、ICT 機器を効果的に活用しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【探究的な学習】 探究的な学習とするために、学習過程を【①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現】とし、この過程が何度も繰り返されているか。
- 【考えるための技法】 収集した情報を整理したり、多様な方法（比較する、分類する、関連付ける、順序付ける、理由付ける、具体化する等）で分析したりできるようにしているか。
- 【教科横断的な学習】 生徒が各教科等で身に付けた「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を発揮できるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6 則 (県教育委員会)

県中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



学級活動の「授業振り返りシート」(小・中学校)



北部教育事務所 (R8.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【議題等の事前周知】 事前に議題(題材)や提案理由、決まっていること、話合いの柱等を知らせ、イメージの共有を図った上で、話合いに臨めるようにしているか。
- 【問題の可視化】 事前にアンケート等を実施し、学級の実態を共有するなど可視化することを通して、本時の学習内容に対する問題意識を高めているか。
- 【活動の振り返り】 事前・本時(話合い)・事後の一連の活動を踏まえ、振り返りを行っているか。また、自己評価や相互評価を行う時間を確保しているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【話合いの工夫】 学級活動ノートや板書等で話合いの時間、手順、手段等を示しているか
また、意見をしっかり聞いたり、つなげて発言したりできるようにしているか
- 【場の設定の工夫】 解決方法等の話合いでは、意図的にグループ活動を設定したり、グループで話し合ったことを学級全体で共有したりしているか。
- 【多様性の涵養】 話合いを通して、他者の考えに触れたり、自分の考えを広げたりすることで、よりよい合意形成や意思決定をすることができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【板書の工夫】 話合いの学習過程を黒板に掲示しているか。また、意見を比べやすくするために短冊を活用したり、見出しを用意して意見を分類したりしているか。
- 【話合いの充実】 話合いの目的を明確にしているか。また、それぞれの意見のよさや違いを明確にさせたり、他者の意見を踏まえた関連発言を促したりしているか。
- 【実生活での活用】 学んだことを現在及び将来の生活改善や集団づくりに実際にいかすことができるようにしているか

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会)

県小・中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県小・中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所)

県小・中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【環境設定】 学習に向かいやすい環境設定ができているか。(自発的な学びを促す)
- 【見通し】 活動の見通しをもてるよう手がかりとなるものを提示しているか。
(目標、流れ、内容、活動時間等)
- 【意欲付け】 場面に合った意欲を高める工夫をしているか。
(言葉かけ・頑張りシール・即時評価等)
- 【実態に合わせた指導】 児童生徒の実態に合わせて指導しているか。
(体験的な活動・スモールステップ・教材教具等)
- 【振り返り】 振り返りの時間を確保し、次時につなげる工夫をしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【自分の考えを整理する工夫】 自分の気持ちや考えを整理し、表現する工夫があるか。(自己との対話)
- 【グルーピング(役割)】 グルーピングが工夫され、個々の役割が明確になっているか。
- 【情報のやりとり】 情報を得たり、考えや思いを伝えたりするためのツールを提示しているか。
- 【①活動を共に楽しむ場】 一緒に活動したり、表現したりすることを楽しむ場面の設定があるか。
- 【②友達・教師からの評価の場】 友達や教師からの評価の場面の設定はあるか。(即時評価、相互評価)
- 【③自分の考えを再形成する場】 先哲の考え方や友達の意見等を手がかりに、自分の考えを再形成する時間を設定しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【試行錯誤】 課題解決に向かって試行錯誤する工夫があるか。
- 【教科の見方・考え方
とのつながり】 教科の見方・考え方等を、自分の経験や今までの学びと結び付けられるように指導しているか。
- 【学ぶことの楽しさへの気付き】 「学んでよかった」「楽しかった」と学びの楽しさや価値、意義に気付けるような工夫があるか。
- 【自己選択・自己決定】 児童生徒が自分で考え、自己選択や自己決定ができる場があるか。
- 【学びの活用】 今まで学んだことを活用できる場が設定されているか。
- 【生活に生かす工夫】 学んだことを今後の生活や将来に生かすことを意識出来るよう工夫しているか。